

くらし
— 生活の中から、日本の森林・林業を考えるシンポジウム —

ライフ・アンド・フォレスト

第6回

日本の林業といえば杉、桧などの針葉樹のイメージがありますが、日本の森林の6割を占める広葉樹も、建築や家具、エネルギーとして暮らしの中でさまざまに利用されてきました。近年、針葉樹一辺倒の林業のあり方や、海外の広葉樹資源に頼ったものづくりが見直される中、自然の力を活かした広葉樹の育成や利活用が注目され始めました。

今回はこの「広葉樹」にスポットを当て、それを暮らしにいかすことの面白さや課題、そして「森のデザイン」とつながった「木のデザイン」のあり方について議論を深め、日本の林業の新たな可能性を考えます。

参加無料・申込不要

会場にて広葉樹製品の展示あり

広葉樹のある暮らし

～ 森のデザイン、木のデザイン～

2017年1月7日(土) キャンパスプラザ京都 4階 第3講義室

13:00 開場

13:30 開会

13:40 第一部: 講演(有賀氏, 小澤氏, 松田氏)

16:10 第二部: パネルディスカッション

13:30-17:00 [京都市下京区西洞院通塩小路下ル・京都駅前]



広葉樹の
もの
づくり

有賀建具店
有賀 恵一
Keiichi Aruga

1950年長野県伊那谷に、建具職人の長男として生まれる。1968年基督教独立学園高等学校卒業と同時に父の元で修業を始め、1978年有賀建具店を継ぐ。60種類以上もの木の個性をいかし、天然乾燥させた国産無垢材で、家具や建具制作を手掛ける。「雑木」とよばれる里山の様々な木や、埋もれ木を使い、唯一無二の作品を生み出している。長野県伊那市の、たくさんの木材に囲まれたベチカのある工房には、若手職人を抱え、木を活かす人材育成にも取り組んでいる。



広葉樹の
森づくり

(有)根尾開発
小澤 建司
Kenji Ozawa

1978年生まれ岐阜県本巣市旧根尾村に育つ。東京農業大学短期大学部卒業後、1999年(有)根尾開発入社。2011年代表取締役就任。造林から育林、素材生産、造園を営む。3,000haの社有林の2/3を占める広葉樹林で皆伐、択伐など環境と目的に合わせた施業に挑戦。架線集材を復活させ後継者育成に取り組む。岐阜県内の製材、木工業者と根尾の広葉樹材を活用する取り組み「Neo Woods」に参画。オリジナルブランドの商品開発で新たな国産材マーケットを創造。5人の子育てをしながら田舎暮らしを実践中。



広葉樹の
エネルギー

(株)Hibana
松田 直子
Naoko Matsuda

1976年愛媛県生まれ。立命館大学大学院政策科学研究科卒。2002年に設立したNPO「薪く炭くKYOTO」で森林バイオマスを広める活動に取り組み、その後、(株)Hibanaを起業。木質バイオマスに関する調査、普及啓発、薪炭や木製品の販売、ペレットストーブやボイラー等の導入支援、商品開発など、多岐にわたる事業を行う。寺町二条にある「京都ペレット町家ヒノコ」を拠点に、木と火のある暮らしを発信している。京都の薪利用に取り組む「まきくもプロジェクト」や「木地師の器プロジェクト」に参画。一児の母。

●コーディネーター

高部 圭司 京都大学大学院農学研究科教授/NPO法人「木」理事

岩井 有加 NPO法人「京都・森と住まい百年の会」/ (株)古川ちいさの総合研究所

主催: NPO法人「木」/ NPO法人「京都・森と住まい百年の会」

<http://www.sainoki.org>

<http://www.kyoto100.com>

【お問合せ】 fax. 050-3309-6365 / ☎ kyoto100nen@gmail.com



京都・森と住まい百年の会



このシンポジウムは平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」の助成を受けて実施しています